

#### 四 剣道・テニス

私の祖先が武士であった関係からか、父は武徳会の役員として非常に尽力していました。子供たちにも武道を習わせ、姉智嘉穂は薙刀、兄正親は剣道や柔道をしました。私は身体が小さくて柔道はやらなかったのですが剣道をしました。身体が小さく、すばしこく立ち回っていたのでみんなから「小天狗」といわれていました。

父はどういうわけか、私が小学校の四年を終わるまでは剣道をやらせませんでした。私は道場に通いこそしなかったのですが、小さい時から見よう見まねで最初から相当にうまくやったのではないかと思いません。

長崎に武徳殿ができてその記念の大会がありました。明治四十年頃だったと思います。この武徳殿ができていちばん最初に薙刀を持った女子と試合をしたのは私でした。記念大会というので、各地から柔道や剣道の上手な人達が大勢集まりました。その中に薙刀を使う女子たちもいたわけで、私の相手の女子は私と同じ小学校の子供でした。順番が回ってよいよ私たちの番になり、私は静かに礼をして立ち上がったかと思うと、すぐとび込んで行って、相手の頭をメン、メン・・といってむちゃくちゃにたたきまくったのです。そのうち審判にとめられ、引き分けになったのです。私はメンを一本取ったのですが、とび込ん